

令和7年度第2回大正区総合教育会議

日 時：令和7年10月30日（木）

午後7時00分～午後8時27分

場 所：大正会館 第4・5会議室

○前田こども・教育担当課長

皆様、こんばんは。定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第2回大正区総合教育会議を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、保健福祉課こども・教育担当課長の前田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、大正区総合教育会議開催要綱第1条に基づきまして、子育て・教育・青少年健全育成に関する分野の施策、事業につきまして、御意見を聴取するため開催するものでございます。

それでは、最初に委員の皆様を御紹介させていただきます。お手元の名簿順にお名前を申し上げますので、恐れ入りますが、その場で御起立をよろしくお願ひいたします。

まず、近藤委員でございますが、本日御欠席されております。

山本委員です。山本委員につきましては、岸本委員に代わり10月1日付で新たに委嘱されました。よろしくお願ひいたします。

○山本委員

よろしくお願ひします。

○前田こども・教育担当課長

北島委員です。

○北島委員

北島です。よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

座霸委員です。

○座霸委員

座霸です。よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

木村委員です。

○木村委員

よろしくお願ひいたします。

○前田こども・教育担当課長

木村委員につきましては、松本委員に代わりまして10月1日から委嘱されております。よろしくお願ひいたします。

山崎委員におかれましては、本日欠席となっております。

鳥居委員でございます。

○鳥居委員

よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

亀井委員です。

○亀井委員

よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

吉井委員です。

○吉井委員

吉井です。よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

城森委員です。

○城森委員

城森です。よろしくお願ひします。

○前田こども・教育担当課長

オブザーバーでございますが、本日は金城府議会議員、川岡府議会議員、出雲市会議員、小山市会議員におかれましては、公務のため御欠席されております。

続きまして、区役所側の出席者を御紹介いたします。

大正区長の村田です。

○村田区長

村田でございます。いつもお世話になっております。よろしくお願ひいたします。

○前田こども・教育担当課長

副区長の北吉です。

○北吉副区長

北吉です。よろしくお願ひします。

○前田こども・教育担当課長

私、こども・教育担当課長の前田です。よろしくお願ひいたします。

教育施策担当課長代理の二階です。

○二階教育施策担当課長代理

二階と申します。よろしくお願ひします。

○前田こども・教育担当課長

次に、子育て支援担当課長代理の林です。

○林子育て支援担当課長代理

林と申します。よろしくお願ひいたします。

○前田こども・教育担当課長

本日の会議は、1時間30分の設定となっております。本日の会議終了時刻は午後

8時半となっておりますので、皆様、御協力をお願いいたします。

また、時間には限りがございますが、委員の皆様から忌憚のない御意見を賜りたい
と思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、村田大正区長より御挨拶をお願いいたします。

○村田区長

改めまして、こんばんは。大正区長の村田です。いつも大変お世話になっております。

急に寒くなりまして、しんどくないですか。1日の寒暖差があまりにも激しくて、
ついていくのがやっとの年になってまいりました。皆さんもお体にお気をつけいただき
たいと思います。

万博も今月無事終わりまして、最初はなかなかお客様、来場者数が伸びなかっただ
けども、最後にはすごく盛大に盛り上がりまして、よかったです。なんとかな
と思っています。途中、大正区につきましても、8月に大正区民デーを設けまして、い
ろいろな音楽、大正区にゆかりの音楽を皆さんに参加していただいたところです。盛
大に盛り上がったのではないかと思っています。

少なくとも万博のレガシー、遺産は大正区政にもぜひ生かしていきたいというふう
に思っていますので、どうぞ皆さんも御理解というか、いろいろなお知恵の出し合い
ができたらなというふうに考えております。

本日につきましては、大正区将来ビジョンに係る御意見をお聞きするのと、あと
「つつじ塾」の実施報告、それから、今までに木村委員にも御参画いただいています
が、小林小学校と平尾小学校が統合して新しい小学校ができると、その取組につきま
して、御報告させていただきます。

今日は限られた時間ですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございました。

それでは、会議の進行につきましては、お手元の配付の資料を基に進めてまいります。

本日の会議は、全て公開とさせていただきます。また、総合教育会議開催要綱第6条に記載のとおり、議事録を公表することとなっており、後日、ホームページで公表させていただきますので、御了承いただきますようよろしくお願ひいたします。

それでは早速、議事に入らせていただきます。

議題の1 「大正区将来ビジョンに関する意見募集について」、御説明させていただきます。前田より説明させていただきます。

まず、書類番号の1、大正区将来ビジョン2029【概要版】を御覧ください。

大正区では、区役所としてめざすまちの将来像と施策の方向性などを取りまとめた計画としまして、「大正区将来ビジョン2029」を策定する予定となっております。

この計画期間については、令和8年（2026年度）から令和11年度（2029年度）までとなっております。

将来像を実現するため、資料に記載されたこの4つの柱を掲げ、住民の地域愛着を育む基盤づくりや情報発信力の強化を図ってまいります。

次に、書類番号2、大正区将来ビジョン2029（骨子案）を御覧ください。

この資料につきましては、この将来ビジョンの4つの柱の1つでございます、3番目の『子どもの夢をみんなで育むまち「大正」』について、めざすべき将来像、施策の方向性を記載しております。本日は、この詳細の説明のほうは省略させていただきます。

書類番号の3、大正区将来ビジョン（子育て・教育）に係る意見と方向性案を御覧ください。

この資料につきましては、将来ビジョンの4つの柱、先ほど申しました3番目の「子どもの夢をみんなで育むまち」を目指すため、どのような取組ができるのか、各

委員皆様からいただいた意見をまとめたものとなっております。

主な御意見を御紹介させていただきます。まず、項目の1「安心して子育てができる、こども達の安全が守られている状態とするために貴団体と区役所が連携して実施したいと思う取組」について御意見ございましたので、御説明します。

まず、城森委員からでございますが、学校外の時間に被害が出た実例を挙げて、子ども・保護者に情報提供する。また、子どもが回避行動できるよう啓発するような活動という御意見がございました。資料の右の欄に書かせていただいているのが、現在の関係機関、区役所等が実施している取組を記載しております。

まず、城森委員よりいただいた意見に対しましては、現在の取組状況でございますが、大阪府警において、事件・事故、不審者、防犯情報等をメールで提供する「安まちメール」がございます。また、区役所におきましては、青色防犯パトロールカー、自転車による区内の巡回、小学校の下校時に合わせた児童の見守りなどを実施しているところでございます。

次に、青少年指導員よりいただいた御意見ですが、子どもの通学路に危険がないかチェックする。危険がないかを確認し、引き続き毎月の夜回りを行っていくなどの御意見がございました。

この御意見に対する現在の関係機関の取組の状況でございますが、通学路の安全点検につきましては、大阪市のほうでは「大阪市通学路交通安全プログラム」がございまして、それに基づきまして、交通安全、防犯、防災の観点において、通学路の安全確保に向けた取組を実施しております。引き続き、区役所、警察署の関係機関と青少年指導員とも連携して実施していきたいと考えております。

次ページでございます。

項目の2でございますが、「こどもたちが将来に夢や目標を持ち、チャレンジできる状態とするために貴団体と区役所が連携して実施したいと思う取組」について、主な御意見を御紹介します。

城森委員からいただいた意見では、例えば社会見学の行き先として区役所を設定する。また、仕事をしている姿を子どもに見せてほしいという御意見がございました。

現在の取組といたしましては、区内の企業・区役所では、職場体験・職場見学の受入れやオープンファクトリーなどを実施しております。また、大正区ではものづくり企業がたくさんございますので、このような企業と連携できるようなことも考えていきたいと考えております。

次に、山本委員より御意見がございました。内容につきましては、子どもたちが、学校や家庭という限られた枠の外にある“社会”に触れ、多様な人や価値観に出会う機会を増やしたいと考えています。また、そうした経験が子どもたちに「夢や目標も持つきっかけ」を生み、「自分の力で社会に関わることができる」という実感につながると考えますという御意見がございました。

また、青少年指導員よりいただいた意見では、子どもが「好き」「やりたい」という興味関心から視野を広げ具体的な経験をさせる、といった御意見もございました。

現在の関係機関による取組の状況でございますが、学校においては、「夢・授業」などスポーツ選手・著名人による授業・講演や、大阪市の第3教育ブロックでは、その中で「探求・読解プロジェクト」、これは企業・団体等による出前事業でございますが、こういった内容を実施しているところでございます。

次のページを御覧いただきたいと思います。

項目の3の「その他、こども・子育てに関する取組として、頑張っているこどもを応援するために貴団体と区役所が連携して実施したいと思う取組」について御紹介します。

青少年指導員よりいただいた意見では、ワークショップ、サイエンスや工作などの創作、料理、お菓子づくりといった御意見をいただきました。

現在の関係機関の取組の状況でございますが、例えば大正ものづくりフェスタや、各校区で活動しております生涯学習などを実施しております。

次のページのその他を御覧いただきたいと思います。

こちらは、木村委員よりいただいた意見でございます。子ども・子育てプラザについて、世代交流ができないのかという意見をいただきました。

子ども・子育てプラザ、大正区にある子ども・子育てプラザでございますが、0歳児から中学生世代まで、こどもと保護者、地域の大人が気軽に集える拠点という位置づけにはなっております。その中で現在、隣にある老人福祉センターと共に地域の高齢者やこどもたちが一緒に遊んだり、ものづくり体験を行うなどのイベントを不定期に開催している部分がございますので、現在の状況をお伝えさせていただきます。

もう一点が、ふれあいセンターは、小林西1丁目にある区社協の横の緑地でございますが、緑地前の歩道の植木について御意見ございました。ふれあいセンター横の緑地は、いわゆる臨港緑地でございますが、臨港緑地の趣旨としましては、環境保全や防災、災害などの避難場所、レクリエーションなどの位置づけがされております。臨港緑地で何ができるのかというところについては、所管部署が港湾局等になりますので、港湾局にも確認しながら、一緒に考えていきたいと思っております。

また、御意見があった緑地前の歩道の植木については、関係機関にこの状況をお伝えさせていただきたいと思います。

それでは、ページを戻っていただくんですけども、初めのページに戻ってください。項目の1で山本委員より御意見いただいている内容でございます。

○村田区長

今、前田課長のほうから資料の説明があったところですけれども、この御意見というのは、そのまま御意見を書かせてもらっています。

現在の関係機関による取組というのは、これに近いことは実施しているということを書いていますので、これにプラスして皆さんと一緒に何か取組ができたらいいんじゃないかなと、そういう趣旨で書いていますので、多分「安まちメール」のことなんて皆さん御存じだと思うんですよね。その中で、じゃあどうするのかという、例えば

通学路安全プログラムでやっていますけれども、毎年やっているわけじゃありませんし、地域の人と行政と一緒に回るというのも大事かなというふうに思いますので、一応そういうつもりで参考と書かせていただいているので、御理解いただければと思います。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

山本委員よりいただいた御意見でございますが、記載にありますように、子育てや教育の支援は家庭だけではなく社会全体で担うものと記載されております。子どもたちの活動に保護者が自然に関われるような“共学び”の場を設けることで、家庭の中でも安心して子育てできる雰囲気を広げていければと考えていますという御意見がございました。

山本委員にお聞きしますが、この「“共学び”の場」というのは、どのようなイメージなんでしょうか。

○山本委員

御意見ありがとうございます。項目1に関して、私はこうやって記載させていただいたんですけども、ほかのメンバーの方々の御意見をきっちり拝見させていただいたら、どっちかというと安全のほうに行っているのかなというイメージがあったので、ちょっと僕の意見が抽象的かなとは思ったんですけども、安心して子育てできるという意味で言うと、保護者様が自分で悩みを抱えてしまったりとか、孤立してしまってというのが、それがひいては子どもたちの安全というふうにもつながっていくかなと思いますので、保護者さんが、どうしても習い事とか、いろいろ考えているワークショップとかって、子どもが参加するとは思うんですけど、そこに親御さんも一緒に参加してというのはなかなか見られない光景だと思うんですけど、子どもが学んでいることを一緒になって親御さんも学ぶというのがあってもいいかなと思いますので、うちの子どういう勉強しているのかなというのを、同じ目線で参加者として学ぶ機会

があれば、単純に自分も学ぶ当事者という意識もありますし、ほかの保護者さんが一緒に参加していれば、横のつながりというのも目線として出てくると思いますので、僕の思いとしては、保護者さん同士という意味でも、社会全体で子どもたちの活動と一緒に参画すれば、みんなでチームとして動いているようなイメージができるのかなという意味で書かせていただきました。

例えばで言うと、この間のものづくりフェスタとかも、結構、保護者さんと子どもと一緒にになって、私もワークショップをやっていたんですけど、参加していただいてという、ああいう空気感はすごくいいなと思ったので、そういう感じで、子どもだけじゃなくて保護者さんと一緒に参加できるイベントなり、當時、ワークショップというのがあってもいいかなというので書かせていただきました。

以上です。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

御説明の中で、保護者と一緒にというところですが、現在、区P T A協議会の中でいろいろな取組があったと思いますが、プログラミングとか、そんなようなイメージになるのでしょうか。

○城森委員

プログラミングに関しては、毎回違うやり方をして、関わる人というのも地域だったり、あとは外部のスポーツ団体が参画してくださったりとか、そこに当然子どもももいてますので、みんなで1つのことをやる、地域と子ども、もちろん外部団体というのは自分たちの宣伝も込みですけれども、そういった中で、なかなか触れ合えない人たちと子どもが触れ合う、当然大人もそうですけれども、そういった活動にはなっていますので、まちの美化ということも含めて、人間関係とかそういったことを学ぶ場にも、もちろん寄与しているかなと思います。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございました。

「“共学び”の場」というのは、具体的にこれからどうしていくかというのは難しいと思いますが、今ここのメンバーの方々は、例えば区PTA協議会の方、青少年指導員の方、子ども会、そして保護司会の方、今日は欠席されていますけども、主任児童委員の方がメンバーとしておられますので、こういった御意見がございましたので、また何か取り組めるものがございましたら、今後御意見をいただきたいなと思います。

あともう一点でございます。資料の項目の3、これも山本委員の御意見の部分でございますが、子どもたちが外の世界に踏み出す勇気を持てるよう、私たち大人が“受け止める社会”をつくることが大切だと考えています、と。「子どもたちが外に出る→大人が応援する→地域が変わる」という循環の形成を、区と共に具体的に取り組んでいければと考えています、という御意見がございました。今、現時点での具体的にどんな取組がございましたら、山本委員の方でなにかございますでしょうか。

○山本委員

連續で申し訳ないです。これもさっきの話に近いとは思うんですけども、子どもたちはいろいろ習い事はしていると思うんですけど、行かせっ放し、やらせっ放しというのが多いかとは思いますので、そこにどういうことをやっているのかなに対して、親御さんたちも、親御さんというか地域の大人が目を向けていただいて、そこを応援するというのも1つなんですけど、もうちょっと具体的に言うと、もっと褒めてあげてほしいなという。僕らも褒める側なんんですけど、頑張っていることに対してしっかり大人が褒めるというのは、やっぱり子どもたちにとってすごくうれしいことだと、単純な話なんですけど思っていますので、ファーストステップは、子どもがいろいろ経験しに行くというのがもちろんんですけど、それプラス意識していくべきなのは、こういうのを頑張っているよねということに対して、運営している側なのか、見ている側なのか、いろいろだとは思うんですけども、しっかり活動を褒めて、頑張っているねというのを言葉として言ってあげるだけでも、すごい受け止め方はプラスになつ

てくると思いますので、具体的な取組というのは本当にこれから考えるべきことだけは思うんですけども、例えばで言うと、この間、後でまた詳しく御説明させていただきますけど、僕らプラウ塾がつづじ塾を運営させていただきまして、つづじでも子どもたちはすごくいろいろ頑張っていましたので、つづじで頑張ったことを、僕たちからも本人たちからも親御さんには報告をしていると思いますので、それに対して「すごい、こういうのを頑張ったね」とか「こういうのが分かるようになったんだね」という、この循環があるだけでも、頑張った分褒めてもらえるんだというふうな意識も出てくるのかなと思いますので、子どもたちに外の世界を見せる、プラス、見ている大人がちゃんとそれをたたえるというのがワンセットの活動として、大正区として意識していければいいのかなという思いで書かせていただきましたので、すみません、ちょっと抽象的なんですけれども、思いとしてはそんな感じです。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございました。今後、一緒に、具体的にどんなことができるのか考えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

この意見をお聞きした趣旨としましては、大正区の将来ビジョンの中で掲げている1つでございます「子どもの夢をみんなで育むまち」を目指すためにどうしていくか、区役所だけでは進めていくことができませんので、関係機関や地域と一緒にできることがないかという趣旨で御意見をいただいたところでございます。

○村田区長

せっかくなので城森さんにもお伺いしてみたい。ここに書いている心は何ですかみたいなこととか、課題とかもあるだろうし。

○城森委員

こう書かせていただいたのは、PTAって保護者の集まりで、例えば特定の団体だったり、特定の個人だったりというのに、頑張れという応援の言葉は当然かけるのはするんですけども、そこに集中して物として何かを出したりというのは、なかなか

難しいなというのが。単純に何である子にだけ、何であそこにだけというのは、横並びの会員で構成されている組織としては、そういうのを取り立ててやるというのは難しいなというのが正直なところです。なかなかそういうのを特筆して特別何かをするというのは、もちろんその子が頑張っているというのは認めた上でなんですかけれども、声かけはできるけれども、何かその、費用を出してどうこうというのは、PTAという組織上は難しいなという思いで書かせていただきました。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

座覇委員、どうでしょうか。何か一緒になってできること。

○村田区長

今の話で言うと、PTAさんと青指さんとは立場が違うから、昔は青指さんも文化祭だったか、作品を作ったり、何かショーをやったりとかしていましたよね。

○座覇委員

それは今でもやっています。

○村田区長

PTAと違う立場なので、御意見があれば。

○座覇委員

一応青指のほうとしても、主に対象は中学生なんですけれども、これは大阪市青指からの取組で、中学生シニアスポーツ大会と絵画写真コンクールというのをやらせていただいている。これに関しましては、今年も大正北中さん、大正区全体で絵画・写真で200点を超える、278点やったかな、という提出がありまして、ただその中でも、今までこんなにあったことはないんですけども、大正区内で選考して、何点かを市青指の審査に出す。その中で、市青指のほうで有識者になるんですかね、また作品を選んで、その中で金賞とか佳作であるとかというのを、最後は大阪市役所と市立図書館に展示をするという取組が青指としてはあります。

スポーツに関しましても、ソフトボールなんかは大正区でまず4中学校が集まって予選をしまして、そこから西ブロック大会というのがあるんです。港区、大正区、此花区、西淀川区の4区、西ブロックで予選をしまして、その勝ち上がりが1チームだけ大阪市大会に出れる。

キックベースは裾野を広げようということで、24区手を挙げれば市大会に出場できるというところで、今回は大正東中の女子のキックの子たちが出ていただいたりするんですけども、そういう取組も親御さんも、市役所に展示されるであるとか、また参加賞としては、市青指のほうから、スポンサーさんですかね、サクラクレパスと森下仁丹さんのほうから参加賞を頂いたり賞をもらうと、去年は大正区の子がレッドハリケーンズ賞というのをもらったりとか、それで親御さんも盛り上がって、去年の倍ぐらい出ています。取組としましては。

スポーツ大会に関しては、毎年大正北中さんで予選をさせてもらっているんですけども、もう選手より親御さんのほうが多いぐらい、ギャラリーのほうが多いぐらいという形で、市大会に行って、毎年大阪城やったんですけども、万博の関係で去年から平野区になっているんですけど、それでもやっぱり親御さんが応援に来ていてやつてはおるんですけども、たださっきのPTAさんとかぶるんでないんですけど、スポーツなのでクレームが出たりとか、やじが飛んだりというところもありますので、みんな真剣に部活をやってきた子たちが引退した後にやるので、ちょっと悪ふざけがあったりとか、マナーがちょっと、ぎりぎりのラインでいけるかな、それは個人の価値観になるんですけども、そういうクレームがついたりするので、こね、プラウさん、褒めるというところがあるんですけども、やっぱりちょっと怒らなあかん部分もあるんですけど、それが今、僕らも指導員として連れていくんすけれども並ばない、公共交通機関を使うと横に広がって歩いたりとかという、社会的なマナーというのを、こっちもほかの人に迷惑かからんようにせなあかんでと言うところなんですけれども、この部分が今非常に多分、難しいんですよね。頑張ったこと

に対しては、勝ったらようやったな、優勝したらよう頑張ったなとは言ってあげれるんですけどもそこまで行く、プレー中のマナーであるとかというのも、やっぱり今は怒れないんですよね。怒ると何でやとなるので、褒めると怒るというところの、大人が見て褒めてあげる、一緒に喜んであげる、できますけども、やっぱりちょっと注意して、これから世の中に行くスポーツとしてのマナーというところで指導を、やっぱり中学生なので、叱るといったらおかしいですけど、指導するべきところも必要なのかなとは思うんですけども、ただそれが非常に難しいです。

○前田こども・教育担当課長

御意見ありがとうございます。

北島委員、区役所とかいろいろと一緒にできることはないでしょうか。

○北島委員

ちょっと失敗例を。子ども会の代表者として来ているんですけど、南恩加島の子ども会の会長も数年前にしています、地域の運動会というのをしまして、それはもう確実に順位づけしまして、1位から5位まで決めて、商品を出すようにしたんです。なぜこのようにしたかといったら、学校の先生と話し合いして、運動会を見に行ったときに何で順位づけしないんやということになったら、順位づけが今の学校関係では難しいんですという話をしたので、そしたら通知表は何でついているんやという話になつて、それで地域の人と話し合って1回運動会しようかというて順位づけする運動会をしたんです。非難ごうごうで、2年で頓挫したんですけど、順位づけってしたら駄目なんですかねというので、まちでも話し合つたんですけど、今って順位づけしたら駄目なんですかね。

○村田区長

区民まつりでは、ガチで順位づけしていますよね、リレーと大縄跳び。順位づけしたらあかんということはないでしょう、学校の成績なんて絶対に順位づけされると思うので。これは区長という立場より個人的な考えなんですけども、学校教育としては

そういうのはあるのかもしれませんけども、地域でいろいろする分に順位づけするのは、必ずしもあかんものではないと思いますし、現に区民まつりで、小林なんて子どもの数が少ないけども一生懸命頑張ってそういうのもありますし、この間の大縄跳びの泉北（いずきた）は面白かったなと思っていますし、あかんことはないと思いますけどね。

その辺、教育のプロとかはどうなんですか、山本さんとか。順位づけってあかんのですか。

○山本委員

僕は、してこそやと思いますし、単純にやっぱり競争は絶対に。

僕も区民まつりにこの間参加していて、平尾が最後優勝して、教室的に平尾が近いので「うおっ」とか思いながらやっていたし、平尾の子たちはうれしいやろうし、負けた子も来年頑張ろうが絶対にあると思うので、そこに関しては多分、順位づけに対して賛否をとった場合は、恐らく賛のほうが多いとは思うので、そこは100%、賛になることはないとは思うんですけど、今後社会に出ていく子どもたちを育てる意味では、負けて学ぶこともあると思うので。

○北島委員

今、城森さんともいろいろな行事と一緒にやらせてもらっていますけど、褒めてもらうことが多いので、それを糧に頑張っていきます。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

木村委員からその他の御意見をいただいた件ですけども、どうでしょうか。

○木村委員

私は、子どもたちというか、赤ちゃんも子育てしていますけど、核家族が多いので、コミュニケーション術がなかなか取れないお子さんになっていくのが目に見えているので、だから居場所づくりというか、みんなの居場所づくりに集ってきたら、おじい

ちゃんも会えるし、こんな人もいてるんやなというのを学びながら、大正区はすばらしいまちなんだよというのを伝えていけたらなと思って、子育てプラザをしていることに乗っかかってやっていただけたらなと。そして、建物がとても古いので、細かく書いたんですけど、階段で3階まで上がってベビーマッサージをしに行けなかったのがありますて、それこそ万博のプラスでああいう会館を建て替えしてもらったら、今後の子どもたちの遊び場が広がるんじゃないかなと思って、みんなの居場所づくりを提案したいですね。

以上です。

○前田こども・教育担当課長

貴重な御意見ありがとうございます。

○村田区長

そういう居場所づくりという観点で、花づくりの研修園の跡地について、収益をあげる事業は不可など条件はありますけど、もし何かお使いしたかったら御相談にはりますよ。

○木村委員

でも、今もうすごい草が茂って茂って、だからみんなが楽しめて土いじりができた、それも食育の一環になるんかなとちらつと思って、さっと書かせていただきましたけど。

○村田区長

あの枠の中は区役所で管理しているところですので、ほかは先ほど言いましたように港湾局が管理しているんですけど、あそこの枠の中は区役所で管理しているので、一応公募という制度になると思うんですけど、公募して手を挙げて、こんなことしたいねんということやったら、小林西やし。

○木村委員

パワーあるかな。

○村田区長

別に木村さんだけじゃなしに、それこそ山本さんとかみんなで、地域の皆さんで、近いので、利活用していただくのも方法かなと思います。

○前田こども・教育担当課長

ほかに議題の1のテーマに関して、何か御意見ございますでしょうか。

鳥居委員、何でも結構ですが。全体的に、もし御意見ございましたら。

○鳥居委員

全体で。今日もニュースでやっていて、不登校35万人をまた超えて、いじめの件数もどんどん上がっていて、特に低学年の子どもたちが学校に行けていない、コロナの影響も大分あるのかなと思うんですけど、例えば低学年の子たちがフリースクールみたいなところに行こうと思っても、低学年がゆえに身辺自立とかもままならなかつたり、指示が通らないので受入れが難しいみたいなことをニュースでやって、低学年の子たちも行けるようなところがあつたらいいなと思っただけで、だからどうということはないんですけど、それも居場所があればもちろんいいけど、やっぱり学校に行けるのが一番いいかなと思うので、学校の教室に行けなかつたら、そうじゃない学校の中の居場所とか、とにかく行けるような雰囲気づくりとかができるかなと思って、東中で少しそういう話を校長ともして、子どもの意見と保護者の意見を取り入れて学校の中を少し変えていけないかなという話はしているんですけど、それを大正区全体としてどうやっていったらいいかというのは難しいんですが、今度また区PTAの研修で、大正区役所さんも協力していただいて映画の上映とか講演会とかしていただけるので、少しずつですが、保護者の考え方とかそういうのが少し変わっていくと、行きづらいとか、ちょっとしんどいお子さんをお持ちの保護者さんが大正区にいててもいやすくなるのかなとは思っているので、小さなことからやっていくしかないのかなと感じているところです。

○村田区長

ありがとうございます。大正区の、特に中学校の不登校は多分、危機的状態と言つてもおかしくないかなと。一応定義があつて、年間30日欠席やつたら不登校という定義なので、年30日なので、月で言うたら5日ぐらいですか、3日か。週に1回休んだだけで不登校という定義になつてしまふので、その定義がいいかどうかというのはあるんですけども、本当に危機的な状態だと思っています。

私としては、来年度以降、この不登校の対策、生活指導も含めてどうしていったらいいのかというのを考えていきたいなというふうに思っています。成績を上げるのも大事ですし、やらんとあかんのですけど、まずその前に学校に来てやという、それを取り組んでいきたいなというふうに思っています。ありがとうございます。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

亀井委員、何かございましたらお願ひします。

○亀井委員

不登校のお話が出たんですけども、それこそ今、我が子が1年生なんですけど、同じクラスにもあの子来てないね、小学校のときは来ていたのにあの子来てないね、急に来なくなつたねというのはリアルに、本当に身近にあって、そのお母さんにも声を正直かけづらいんですね。スーパーでたまたま会つても、どうしたのと聞きづらい。お母さんも多分言いづらい。悪いことではないとは思うんですね、不登校自体が。オーブンスクールとか言われても、どこにあるのか分かってない人も多数だと思うんです。もうちょっとネガティブなイメージを持たずにいけるようになればいいかなと思います。

○村田区長

ありがとうございます。多分、大きく分けて2つのパターンがあろうかと。もう行けへんねんと、行かんでええねんと思つてはる親と子、それから、心の底では行きたいけどなかなか足が向かへんという。どっちかいうと、後者のほうはどうにかできへ

んかなと。「行きたいねんけど」というところをちょっとずつでも行けるような取組というのは、それは今おっしゃったように親に対しても、親も含めてフォローできるやり方はないかなと探ってみたいと思います。ありがとうございます。

○前田こども・教育担当課長

吉井委員、お願いします。

○吉井委員

不登校の話からで、うちの娘の同級生で2人ぐらいいて、その中で1人の子は、学校 자체は楽しいんやけども、今は多様性の時代というか、そこまで学校に行かなかんという価値観、考え方も、僕らのときと今の子ではまた違うかったりするのかなと。親の取り方もそうだと思うんですけど、そういう子が1人おって、もう一人は、ヤングケアラーまではいかんけども、お子さんが多いからそこの面倒を見なあかんというので、学校にちょっと行きにくいという理由の子もいたりとか、だから、今まで僕自身がなかつたようなことを、今の子たちは経験というか、そういう子もいてるのかなと。そういうふうな子を救うじゃないんですけど、一緒にやっていけるような場が何かできたらなというのは思うのと、あと先ほどのその他でも、子育てに関する取組と頑張っている子どもを応援する、今、区のPTAをやらせてもらっている中で、各地域の行事を聞いていたら結構いろいろなことをやっているんですよね、いろんなところで。盆踊りだけでもいろいろなところでやっているし、餅つき大会もいろいろなところでやっているし、地域地域ではすごく熱い取組を皆さんされていて、子どもと地域と保護者、結構三位一体で大正区って動けているんじゃないのかなというところがあるんですよね。

さっきの不登校の子も、そういう場には結構来るんですよね、楽しいから。でも、学校には行かへんという、そういうところがあって、地域の行事もある程度バランスよく、過度に熱過ぎるとついていけない方も出てくるだろうし、そこのバランスというのが難しいと思うんですけど、僕は熱いところが好きなのでいいんですけど、そ

いうふうなものも地域でやっているよというのをほかの地域の方も知れる手段があつて、そういうところに遊びに行けるという、そうするとまた違う形で輪の広がり方も変わってくるのかなと。地域で1個1個結束が固いというか、そういうところがあると思うので、そういうふうなものを区役所の中から、ほかの地域の方も参加できるような形があったらいいなと思います。

○村田区長

ありがとうございます。最初の不登校の話、やっぱり福祉的な支援というのが必要な子どもさんも家庭もあると思いますので、その福祉的な支援については役所の責任ですので、そこは丁寧に御家庭に入っていきたいと思いますし、やっぱり見守るに当たっては、地域の民生委員さんなり、主任児童委員さんにも今すごく御協力いただいておるところですので、そこの地域の目というのも引き続き御協力いただきたいなと思っています。

あと地域を越えたというのは、それがまさに先ほど言った区民まつりなんです。年に何回もできないですが結構、どこの祭りに行ってもいってはるなという人いてませんか。あちこちで参加されている。それはぜひコラボしていっていただきたいと思いますし、役所がというよりも、各地域でいろいろな情報発信できるような取組は考えていきたいなと思いますし、今もやっていただいているところがあると思いますので、よろしくお願ひします。

泉尾東とかやったらインスタを一生懸命やってはるんですよね。北恩加島もやってはりますかね。ほかにもだんだん地域が増えてきますねんけども、情報発信は最近されているかなと思っています。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

今回御説明しました大正区将来ビジョン2029の『子どもの夢をみんなで育むまち「大正」』で記載している、「不登校児童生徒への支援」、また「子どもの将来への

夢の育成」を進めていくため、そういったところの具体的な取組につきましては、区役所だけではなくて地域の皆様と一緒にになって考えていきたいと思いますので、引き続き御協力をどうかよろしくお願ひいたします。

議題 1 のほうは終わらせていただきます。

次の議題でございますが、議題の 2 でございますが、「令和 7 年度民間事業者を活用した課外学習支援事業（つつじ塾）」でございますが、つつじ塾につきましては、今年度は 7 月、8 月の夏休み期間中のうち 8 日間、この大正会館で実施しました。今まで、大正中央中学校で、一部の小学校では通年実施していましたが、今年度はそういう実施ができなかったので、今回初めての試みということで、夏期講習という形でつつじ塾を実施させていただきました。

それにつきまして、今回、このメンバーでございます株式会社プラウの山本委員に、実施した内容を御報告お願いしたいと思います。

○山本委員

ありがとうございます。では、【資料 4】のほうを使わせていただきまして、今回、私たち株式会社プラウ経験型教育塾が行いました「つつじ塾」について、詳しくお話をさせていただきたいと思います。

私たちプラウ経験型教育塾は、大正区内に 2 教室、個別指導型の学習塾でやっていまして、小林と三軒家で今 2 教室を運営しております。小中高全ての学年対応にしていまして、小学生ももちろんんですけど、中学生、特に小林の教室とかは中央中の生徒にかなり多く通っていただいたりとか、結構地域密着な形で教室運営をさせていただいております。

つつじ塾は、これまで他の会社さんがいろいろやられていたんですけども、今年初めて私たち株式会社プラウが大正区役所のほうから依頼いただきましたので、実施させていただきました。その内容を少しお話しさせていただきたいと思います。

資料をめくついていただきまして、内容としましては、今回のつつじ塾の概要

と、あと詳しい実施内容であったりとか、あとアンケートのほうも取っておりますので、それに関しての効果検証とか、その辺りを報告させていただきたいと思います。

基本情報としましては、先ほど前田課長からも御説明あったとおりなんですが、今までのつづじは各学校を使って年間でやっていたんですが、今回に関しては、場所は大正会館の会議室を使わせていただいて1か所でさせていただいて、期間も7月、8月の夏休みで、4日間ずつの計8日間で実施させていただきました。

そのままめくっていきまして、参加者としましては、小学生の固まり、中学生の固まりで2部構成で授業をしたんですけども、小学生がほぼ小学6年生だったんですが、小学生が13人、中学生が中1、中2、中3で合計7名ということで、全体で20名の生徒が参加してくれました。

申込み形態として、一旦前期・後期を分けて申込みを取っていてたんですけども、中学生は特になんんですけど、もう最初の段階で前期・後期両方とも受けますということで、通期で申し込んでいただいた方がほとんどで、前期だけで最初申し込んだんですけど、4日間行ってみたらめっちゃ楽しかったということで、おかげで申込みで後期も追加で申し込んでくれた子がいたりとかで、全体的に内容はかなり満足いただけた結果となりました。

というのも、ちょっとページが飛ぶんですが、真ん中のほうに、効果検証のところで、定量項目というふうに書いているんですけど、アンケートの結果を載せさせていただいていまして、今回、前期の最後と後期の最後に参加者全員にいろいろ項目を入れてアンケートを取ったんですけども、何よりのところで、「参加してよかったです」というアンケートの項目に対して、91.2%の生徒が参加してよかったですと答えていただきました。5段階評価で、ほぼ全員が5か4というところだったので、前期と後期ともに、とにかく今回のつづじ、授業を受けた後で、みんなが参加してよかったですなどというふうに思ってもらえた授業となりました。

なので、今回のつづじ塾、結構特殊な授業形式は取っていたので、どういう感じで

子どもたちに楽しんでもらえたかというのをここから詳しくお話しをさせていただくんですけれども、先ほどの参加者のところからちょっと進みまして、次が日ごとの参加人数と継続率というところで、これが何よりよかった点なんですけれども、出席率、継続率がすごく安定していました。中学生が特になんですけど、部活があつたりとかで、やむを得ない事情で休んだりとかはあったんですが、基本的に無断欠席とかそういうのは一切なく、休むとしても体調不良か部活か家庭の事情かということだったのと、途中での子来なくなったりとかは一切そういうのもなかったので、基本的に参加した子たちは、最後まで来れる日はちゃんと来てもらって、授業を受けてもらったというのがグラフのとおりの結果となっております。

ここからつつじ塾の授業の考え方に入っていくんですが、授業設計の考え方というところで、サイクルの図とともに載せているんですが、つつじとしては、座学でござり勉強してというよりかは、みんなで手と口と体を動かして楽しみながら学び取つていこうというのを何よりのテーマにしていまして、学ぶ楽しさをどう伝えられるかというのをメインテーマにしていましたので、いかに子どもたちが自分から動けるかというのを大事にしていまして、なので、授業の最初に安全地帯をつくりますというふうに書いているんですけど、とにかく自分を出していいよというふうな雰囲気づくりから授業を始めまして、みんなで自己紹介をして、いろいろなテーマでやり合ったりとか、体が動かしやすいようなアクティビティを設けてあげて、アイスブレイクみたいな感じでアクティビティをやってから学びに落とし込んでいくというふうなスタイルを取っていましたので、まずは心理的安全性をつくった上で、勝手に自分たちが発言してもいいんだとか、失敗しても恥ずかしくないんだというふうな、そんな空気感をつくった上で、じゃあこういうことをチャレンジしようかなとか、学んだ上で、振り返りの中で明日はどうやって頑張ろうかなという、こういうのを日々の授業で空気感としてつくっていましたので、それを4日間、計8日間続けていった形になります。

ここからは、具体的な写真付きで取組例を入れているんですけども、写真のところ、なかなかアクティブなスタイルの授業になっていまして、小学生の取組例のところで言いますと、アイスブレイク、ペーパータワーというふうに書いているんですが、それが小学生のところの写真左上になっていまして、小学生を3班ぐらいに分けまして、各班にA4のコピー用紙30枚ずつぐらいぱっと渡して、それを折るか重ねるかだけでどれだけ高いタワーを作れるかというふうなチャレンジをさせまして、最初はノーヒントで、これを使ってとにかく高くしなさいというスタートから始まつたので、最初は全く分からんまま低いピラミッドができて終わったんですけど、そこから作戦会議して、どうやったらもっと高くなるかなというのをみんなでしゃべり合おう、作戦会議タイムを設けて、そこからちょっとずつみんなでアップデートをしていきまして、単純に横より縦のほうが高くないかというふうになっていったりとか、間に1枚かましたほうが次に重ねるときに安定するよねみたいな考え方があんなどんと試行錯誤として入っていきまして、他のチームを見ながら、あそこ何で高いんやろうというのを真似るでも全然いいと思うんですけど、他のチームを見ながら、ああやつたらもっとうまくいきそうというふうになっていって、写真左は最終日、ペーパータワーは全体で3回ぐらいやったんですけど、最終日に関しては床スタートで天井につきかけるというぐらいのすごいことになりました、そのぐらいみんなアップデートしながら頑張ってもらいました。

ここでよかったですのは、チーム4人ぐらいで1班つくっていたんですけど、みんながちゃんと役割を自然とつくっていくというのが見ていてすごく面白かったですね。みんながみんな自分を出せるわけじゃないので、ちょっと寡黙な子というか、作業が得意な子は、とにかく折ることに徹して、折って渡す、折って渡すという子がいたり、ちょっと背が高い子は、じゃあ私が椅子に乗って、載せるわという子がいたりというので、そこは僕らから指示を一切出していないので、チームの中で、フィジカルもメンタルも含めて何が得意かなというのをみんなで考えながらやっていけたのはすごい、

やってみてすごく面白かった点でしたね。

あとは、そういうのをやりながら図形ってどうなっているんかなというふうに、ちょっとずつハードのほうに落とし込んで、ペーパータワーをやって図形の問題をやってみて、最後にちょっと小テストをするというふうな、そんな感じでふだんの勉強にも落とし込んでいくという一連の1時間の授業というふうに基本的にはつくっていました。

あとは、もう一個でいうと、写真右側のほうで割引計算に関してのところは、割合が小学5年生で習う部分で、結構みんな苦戦するところなんですけど、何%引きとか何割引の計算、特にお母さん方はふだんの買物で暗算でやっていると思うんですけど、これ結構塾で教えていても、幾ら教えても3割引が何で0.7を掛けるのかが分からぬいというのが、ずっと伝わらない部分があって、結構学校の先生も苦戦しているところだと思うんですけど、どうしても机の上で全てを完結してしまうと、イメージが湧かないままやらせてもというので、じゃあ買物形式で覚えさせたらできるのかなとぱっと思いついて、そこからすぐに授業をつくってやってみて、教室の中に商品の写真、絵ですね、イラストとかを貼って、そこに全部割引率をランダムで貼って、その中で1チーム4人ぐらいでチーム競争で、制限時間10分で自分たちで割引の計算をします。もともと座学でどういう計算をするという是有る程度教えた上で、割引計算もした上で、制限時間内にいかに1,000円に近づけるかという競争をやったりとかしてというふうにやってみたら、やっぱりみんな勝ちたいので計算が速くなるし、間違えたくないでの計算の精度も高くなるしというので、実際そういう現場に、そういうふだんの生活に落とし込んでしまうと本気度が違うので、それでみんな見る見るうちに割引の計算、何なら暗算で結構ぱっとやって、これとこれやったら1,000円に近づきそうみたいなふうにやって、すごいチームは1,000円ぴったり出すようなチームも出てきたのでその辺は、何時間もやっても伝わらなかつたやつが、数分でこういう感じで、ふだんの買物みたいな雰囲気で競争してみると覚えられるというのがあったり

して、そういう感じで、体を動かして覚えていくというふうなスタイルでやってみました。

小学生は主にはそういう形で、中学生のほうも、ページが次になるんですが、中学生もペーパータワーをやっていますし、小学生とそこまで大きく違いはないんですけど、中学生の写真左下で言うと、これは英語を使ったワークだったんですが、各2チームに分けて、イラストを描く担当の子が白板に向かって背中を向けて、前に2人立っているんですけど、各チームにイラストのお題を2つぱっと渡して、絵を描く子は何が渡されているか知らないんですけど、ほかのチームはそれを描かせるためのヒントをひたすら英語で言うというルールにしてみて、例えばタコやったら「オクトapus」って叫ぶやつがいたりとか、鹿やったら鹿の英語を言ったりとか、イラストをいかに忠実に再現するかというルールやったので、右を向いているんやったら「ライト、ライト」って言ったりとか、という感じで、単語でもいいよというふうに言ったので、そんな感じでとにかく日本語禁止、英語オンリーで、そのイラストを再現させるための英語のワークという形でやってみたりとか、あとは写真右上で言うと、英文方程式というふうに項目も書いているんですが、英文でホワイトボードのところにばあっと文章を書きまして、これは僕が手書きでざっと書いたんですけど、英文がざっと書かれて、最初和訳するのかなというふうにみんな思っていたら、これ実は中学1年生でやるような一次方程式の速さを使った文章題を英訳したやつを書きまして、これを和訳した上で方程式を解きましょうというふうな課題にしてみて、子どもからすると、英語が分からん上に方程式を解かせるんかいという感じでんやわんやだったんですけど、割とやってみたら面白くて、英語ができる子は訳そうとするし、数学ができる子は数字だけ読み取って、ここを掛けたらとか、ここを割ったら答えになるんじやないというふうな感じで、みんなでああでもない、こうでもないとディスカッションしながら、英語が分からんくても数字で推理する子もいるし、何とかして英語を単語から拾っていってというふうにやる子もいたりとかで、その辺、おのおの自分の分か

る・分からぬ、得意・不得意を補完しながらやるというふうなスタイルができたので、その上で最後は一般的な方程式を改めて解いてみようとか、そこも共同作業でやっていたので、3年生、2年生、1年生が合同で授業を受けていますので、分かる3年生が教えてあげたり、1年生が突発的にひらめいたりというふうな形で、座学に落とし込んでいくというふうな取組例でした。

なので、つつじとしては、次のページが分かりやすいんですけど、子どもたちの様子を見ていただいて分かるとおりほぼ座っていないです、今回のつつじに関しても。座ってじっと何かを聞く、何かを書くという時間よりかは、誰かが立って発表するとか、みんなで話し合って何かを決めるであったりとか、課題に対してみんなで全然、フリーにしゃべってもらって構わない空間なので、ああやこうや言いながら意見を出し合ってというふうな形の授業スタイルにしたので、自分が分からなくても誰かが教えてくれたりとか、誰かに教えることによって自分の学びになったりとかというふうな活発な活動があったのがすごい。僕らとしては狙った部分ではあったんですけど、ここまでみんな活発に動いてくれるかというのは、想定のかなり数倍の結果だったので、そこはやってみてすごくよかったです。

というのを踏まえてアンケートを取った結果、すごい、参加してよかったです、楽しかったというふうに思ってもらえたのが成果でした。

あとはアンケートに関しては、いろいろ項目を取っていますので、全部高得点を取らせていたいでいるんですけど、特に特筆すべき点としては、詳細アンケートのところの下から2番目に「学校との違いを感じたか」というのが、今回すごい得点が高かったのが顕著やなというふうに思ったので、学校が悪いわけじゃないんですけど、学校のふだんの授業とは違う空気感を確実にみんなが感じたというのが、今回のつつじをやってよかったですかなというふうに思っています。「学校と違ってすごい楽しい」って叫んでいる子もいたぐらい、その感覚というのは強かったのかなというふうに思いました。

なので、アンケートも普通のマーク型と、自由に書いていいよというところは、結構みんなイラストを書いてくれたりとか、何が楽しかったかって書いてもらったり、各日、1日ごとに簡単な振り返りシートも取っていましたので、こういう形で振り返りも書いてもらっていました。

最後のほうになるんですけども、成果と課題としまして、成果としては、みんなちゃんと受けてくれたと、あとは楽しかったというふうに言ってもらえたところとか、僕たちが指示せずとも自然に話し合ったり、教え合ったり、協力し合ったりというのが勝手に生まれてくる雰囲気ができたというのが、僅か8日間の中でそういうふうになっていくというのは、やっている側としてはうれしかったなと思いました。

ただ課題としては、さっき私が説明したとおり、いろいろなアクティビティをやって、ペーパータワーなりいろいろやっていたんですけど、じゃあふだんの学校のテストっぽい問題が解けるようになったかというと、そこの接続がまだ甘かった部分があったので、いろいろ体を動かして楽しかったなで、じゃあ算数がぱっちりできるようになつたかというと、最後にちょっと小テストをやってみたんですけど、なかなかそこは苦戦したので、ソフトな部分とハードな部分が僕はもうちょっとつながるかなと思ったんですけど、なかなか道のりが意外と遠かった、もうちょっと段階を踏むべきだったなというのは、やってみて反省点でした。塾としてそこはちゃんと結果を残したかったところやったんですけど、「楽しい」で一旦ピーコクを迎えてしまったのは、もうちょっとなというのはありました。

あとは、今後の展望に関しては簡単になんすけれども、広報として今回学校でチラシをまいていただいたのがすごく効果的だったので、こういう活動はやっぱり学校を通すと訴求率が高いなというふうには思いました。

あとは展望のところで言いますと、今回私たちとしても公共のお仕事をさせていたいたのは初めてだったんですけど、なかなかふだんの塾とは違う子たちと接する中で、ふだんの個別とはまた違うスタイルで授業をさせていただいて、やっぱり感じる

部分は大きかったですし、これに関して私が思っているところとしては、さっきの意見書のところの話にもちょっと触れるんですけれども、いろいろこういう課題活動、皆さん意見の中でも体験を通してと書かれていたので、そういう体験があってこそという気づきがあって、将来こういうことしたいなにつながるスタート地点だとは思いますので、つつじを通して勉強に対してポジティブになったりとか、何か物をつくるのが楽しいなのか、友達と協力するのが楽しいなのか、私はサポートする側が向いているんだなという気づきであったりとか、そういうところも含めて、この8日間でも結構みんな何かしらの気づきはあったと思うので、そういう刺激をいかにどんどん与えられるかというところだと思うので、さっき吉井委員もおっしゃっていたとおり、各地域いろいろ取組を熱心にしていると思うんですけども、何かもっと常時接続できるような取組を今後つくっていければなというふうに私は考えていましたので、やっぱり学校が一番集まる場所なので、学校で何か、つつじが今まで学校で年間でやっていたのでそれをやればという話なんんですけど、また違った形で、学校の中で子どもたちがすぐ接続できるようなタイミング、場所で、今ＳＴＥＡＭ教育とかありますけれども、学びの気づきの刺激になれるような、もっとフレックスでフリーな学びの場というのが1つの機関として、箱としてつくれればいいなと思っていますので、それは今後とも区役所のほうと協議したい部分だとは思っております。

すみません、ちょっと長くなつたんですけども、今回つつじとして、いろいろ子どもたちの気づきを、学びの楽しさを感じられたというのがよかったです、区役所のほうには感謝申し上げたいと思います。報告としては以上です。ありがとうございます。

○前田こども・教育担当課長

詳細な報告をいただき本当にありがとうございました。
ただいま御報告があつた件につきまして、何か御感想、御意見等がございましたらお願いしたいと思いますが、どうでしょうか。

○北吉副区長

私も見に行つたんですけど、普通の塾だったらドリルとかをやったり、個人作業になるんですけど、写真を見ていただいたような共同作業を行うことで、学校を越えた交流の機会にもなったと思いました。違う学校の子と仲よくなったりというのも見られて、よかったです。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

プラウさんの報告書にもございましたが、また、区役所とプラウさんと連携ができるものがあれば今後やっていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

それでは、次の議題でございます。10月21日に開催しました第2回小林小学校・平尾小学校 学校適正配置の検討会議につきまして、教育施策担当課長代理の二階より御説明申し上げます。

○二階教育施策担当課長代理

失礼します。10月21日に開催されました第2回小林小学校・平尾小学校の学校適正配置検討会議の内容について、御報告させていただきます。

次第のとおり、議題は4つでございます。

まず、議題1の「学校名案及び学校名の決定方法」について、資料1といたしまして、メンバーの皆様からいただきました案を4つ提案させていただきました。大正中央中学校、平尾小学校、大正みらい小学校、大正つつじ小学校です。

次のページの別紙には、メンバーの皆様からいただきました学校名への思いや理由を記載いたしております。内容の説明については割愛させていただきます。

次に、資料2でございますが、第1回検討会議での議論を踏まえまして、学校名アンケートの実施について提案をいたしました。まず、対象者については、小林小学校と平尾小学校の児童のみとするのか保護者を対象とするのか、学年は全学年とするの

か統合時に在籍をしている現在の1年生から3年生を対象とするかといった観点で、4つのパターンをお示しいたしました。

次に、集計方法につきましては、両校区の児童数にかなりの差がありますので、回答数を同数にそろえた形で集計するか、実数で集計するかの2パターンをお示しいたしました。

あと、実施時期は11月中旬から下旬を予定し、実施方法は両小学校にて配布・回収。実施後の進め方につきましては、アンケート結果を基に、次回、来年2月に予定しております第3回検討会議において選定することを御説明いたしました。

次のページの資料には、他区における学校名の決定方法を記載いたしておりますので、御参照をお願いいたします。

資料3につきましては、学校名アンケートの案になります。

以上が議題1についてになりますが、この内容の検討にかなりの時間を要しました。本日は時間の関係上、結論のみ申し上げますが、アンケートの対象者は、資料2の②にございます、小林小と平尾小の全学年の児童と保護者とします。

集計方法につきましては、資料で御提案した内容にはなかったのですが、学校ごとに保護者と児童それぞれの割合を算出して集計することとなりました。

また、アンケートの内容は、低学年の児童にも分かりやすい内容となるよう、校長の意見を聞きながらアンケートを作成したうえで、アンケートを実施することといたしました。

次に、議題2の「再編整備後の通学路について」ですが、資料4を御覧ください。前回の会議におきまして、大正通の横断に関して、歩道橋の設置や歩車分離信号にするなどできないかという御意見をいただきましたので、関係機関に確認した結果を資料にまとめたものでございます。

歩道橋の可否について、建設局に確認いたしましたところ、例えばピーク時間の横断者数の人数でありますとか、建設コストの問題、あと設置にかかる期間の問題があ

るのではといった回答がございまして、この統合に伴い、歩道橋の設置予算の確保を行い設置することは困難であるという旨の御説明をいたしました。

歩車分離信号設置の可否について、大正警察に確認したところ、歩行者用の青信号の時間を相当確保する必要があり、その影響で車両の待ち時間が長くなるといったことや、大正通全体の流れが悪くなるといったことなどから、なかなかこれも規制が難しいという御説明をいたしました。

この 2 つの確認結果を踏まえまして、大正通の横断箇所について検討いたしましたところ、大正警察署から以下の 2 点ですね、1 点目が、歩道橋を渡るのが安全であるが、平尾の歩道橋は東側が市電跡のスペースで道路が複雑な状態となっているため、通学路としないほうがよいのではないか。2 点目が、大正中央中学校前交差点の 1 本北に中央分離帯があり、東西道路からの右折がないため、ここを通学路として見守りの方に付いていただけたらいいのではないかという助言がありました。

あと、その他といたしまして、通学路ではありませんが、前回、メンバーから御意見がありました、小林公園南西角交差点への信号設置の可否についても大正警察署に確認いたしました。これにつきましても、交通量や信号機が設置されている交差点の距離を勘案して信号の設置を決定していることから、ここに信号を設置することはなかなか難しいといった回答がございました。

これら関係機関に確認した見解を踏まえ、再編整備後的小林地域からの通学路案につきましては、資料 5 を御覧ください。

裏面の写真つきの地図でお示ししておりますとおり、100円ショップ付近の丸印のポイントが中央分離帯のある横断歩道で、この箇所を横断して通学する経路を記載しております。

以上の関係機関からの確認内容と通学路案について、メンバーの皆様からは「この案でよい。」といった御意見をいただきましたが、地域で見守り活動をしていただいている方が高齢化、不足してきているといった御意見もあり、見守りの人の配置をど

のようにするかについては、今後議論していくことといたしました。

次に、議題3の「校章・校歌・標準服の検討事例について」ですが、資料6において、これまでの他区での検討事例を御紹介させていただきました。細かい内容は省略させていただきます。また、資料7では、他校の標準服の写真などを御紹介させていただいております。これにつきましては、当日は時間の都合上、なかなか委員の皆様から御意見をいただけませんでしたが、今後はこれら他区の事例を参考に、次の検討会議までに検討会議メンバーや学校の教職員から決定方法などについて御意見をいただきて、次の検討会議で議論していくことといたしました。

最後、議題4の学校の魅力化につきましては、資料8でお示ししているインセンティブ予算を活用した教育環境の確保や教育環境の活動の充実はもとより、児童が輝き、魅力ある学校となるために地域と連携した取組が新たに必要であると考えていること、スポーツ・文化活動などの地域との交流イベントを実施するなど、大正中央中学校区の児童と地域が一体となる取組を考えていきたいので、今後メンバーの皆様から御意見いただきたい旨を御説明いたしました。

会議の資料は、既に区ホームページにおいて公表しております。議事要旨につきましても、作成でき次第、区ホームページにて公表いたします。第3回の検討会議は来年2月に予定しておりますが、内容につきましては、総合教育会議開催のたびに御報告させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

大変端折った説明になりましたけれども、以上でございます。よろしくお願ひします。

○前田こども・教育担当課長

ただいま報告させていただきました件につきまして、何か御質問等はございませんでしょうか。

この件に関しましては、検討会議でいただいたメンバーからの意見を踏まえ、こういった検討会議の場でしっかりと検討していきます。

それでは、本日予定されている議題は以上でございます。

それでは、本日の総括を村田区長よりお願ひしたいと思います。

○村田区長

先ほどの平尾小と小林小の統合のお話を何故ここでさせていただいているかといいますと、今子どもの数というのが、一年に生まれるのが大正区内は三百何十人なんですよ。ということは、単純に10校区で割ったら35人前後なんですね。ということは、各校1クラスになってもおかしくない。三軒家東はまだ児童数が多いので、三軒家東を抜いたら本当に子どもの数は少なくなるというのが予想されるかなと思っています。

昨日、実を言いますと、大阪市会のほうで私が答弁をさせていただいて、鶴町、鶴浜の発展、開発についてどう考えているのという質疑があったので、鶴浜、鶴町の発展なくしては大正区の発展はないというふうな形でまちづくりをしていきますと申し上げました。ですので、そんな中で、人口を呼び寄せる、人を呼び寄せる取組というのはしていきたいなとは思っているんですが、一方で日本国中で言うと、2050年には1億人を切ると言われているんですよね。2050年ってあと25年後なんですよ。、もう日本国中が減るので、大正区だけが増えるというのも、可能性としてはどうなのかなというふうに考えていて、そういう状況ですけれども、将来、ほかの小学校、あるいは中学校でも、可能性としてはありますよねというのを、ちょっとだけ頭の片隅に置いていただければなというふうに思っております。

あと、全体を通じてなんですけども、いろいろと御意見いただきましてありがとうございました。将来ビジョンをこれからつくっていくんですけども、いい御示唆も各委員からいただきました。順番をつけていこうという話もありましたし、学校の先生の教育はお任せしたいなと思うんですけど、頑張って一番を取った子は応援するみたいな、そんな取組も併せてしていきたいなというふうに思っています。いろいろな御意見ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

皆様には、議事進行に御協力いただきまして、本当にありがとうございました。この会議で議論した内容につきましては、また区役所内においてもしっかりと情報共有させていただき、大正区の実情に応じた教育行政の推進に努めてまいります。

また、本年度の総合教育会議の開催でございますが、この会議で今年度は終了となります。次年度の大正区総合教育会議の開催につきましては、来年6月頃を予定しておりますので、日程が決まりましたら周知させていただきたいと思っております。

この会議で御説明しました大正区の将来ビジョン2029につきましては、今後、パブリックコメント、そしてまた12月には区政会議も開催されまして、そういった意見を踏まえて、令和8年3月末に策定する予定でございます。また、このビジョンが正式に策定されたら、各メンバーの方々に書面にて報告させていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願ひいたします。

それでは、本日の大正区の総合教育会議については、これをもって終了させていただきます。本日は遅くまで誠にありがとうございました。

—了—